

(仮称) 鈴峰ホースパーク建設事業に係る簡易的環境影響評価書
三重県環境影響評価委員会小委員会 質疑概要

日時：令和3年1月18日(月) 13:30~15:30

場所：三重県保健環境研究所 1階大会議室

委員：本日の説明資料 p14 に大気汚染物質の濃度が記載されていますが、簡易評価書に記載の値と異なっており、転記ミスと思われます。年平均値として日平均値の98%値が記載されており、本来の予測結果であれば、バックグラウンド濃度に対して、本事業の寄与は小さいにもかかわらず、影響が大きいように見えてしまいますので修正願います。大気質に関しては、粉じんの発生防止のため散水を行うなど、適切な対応を取っていただければ、事業の遂行に大きな問題はないと思います。

事業者：説明資料に誤りがありましたので、修正させていただきます。

委員：緑地への散水は地下水を利用するということでしたが、地下水として浸透するのでしょうか、あるいは排水が水路から河川に流出するのかを教えてください。

事業者：現状のゴルフ場の芝の散水と同様ですので、地下に浸透すると考えています。

委員：悪臭は類似施設の調査結果と比較して予測・評価を行ったということですが、アンモニア等の濃度は風向や風速、馬の飼育数によって影響を受けると思います。結果を見ると、距離を重要視されているようですが、考え方をお聞きかせください。

また、説明資料 p24 の水質の予測では、八島川への寄与率で評価していますが、この寄与率0.16%というのは水量ですか、BODや大腸菌群数等の個別の指標によるものですか。

事業者：八島川への寄与率ですが、これは流量です。

委員：BODの寄与率は考慮しなくてもよいのですか。

事業者：流量の寄与率が小さいですので、完全混合式でBODの濃度を計算しても同じです。流入する排水のBODが大きくなり、割合も小さいです。

委員：割合が小さいというのはそうかもしれませんが、現に八島川で基準を超えているということと、ホースパークからの排水の負荷は大きいということはないのでしょうか。

事業者：馬の糞尿が直接流入するとそうかもしれませんが、馬房の中で敷藁に吸収されたものを回収しますので、排水経路に流出するということはありません。洗濯や馬を洗った排水が主ですので、あまり濃度の高いものは出てこないということです。

悪臭について、他県にある馬のトレーニング施設を実際に見てきたのですが、あまり臭いはありません。豚舎や鶏舎とは異なり、馬房の臭気は小さいです。類似施設の測定結果ではアンモニアが検出されていますが、これは馬の糞尿を含んだ敷藁を一定期間保管して堆肥化する施設で測定しています。今回は、毎日回収して搬出する計画にしていますの

で、悪臭に関しては心配ないと考えています。

委員：説明資料 p29 の生息・生育している可能性のある重要種のうち、p30 の影響を受ける可能性のある種は、どのように選定されたのでしょうか。実際に調査して、現地に生息しないと判断されたのか、たとえば p30 の表ではニホンリスが抜けていますが、生息していても、事業による影響を受けないと判断されたのでしょうか。

事業者：簡易アセスは文献調査を基本としており、現地調査の結果ではありませんので、レッドデータブックや鈴鹿市発行の文献をもとに、この地域で確認されている生物の種類を抽出したうえで、現地の環境や専門家へのヒアリングを通じて生息・生育の可能性を評価しています。そのように文献から絞り込んだものが p29 の一覧です。この生息・生育の可能性のあるものから、今回の事業による造成工事の影響や、施設の供用による水質の変化等を予測して、影響があり、何らかの保全対策を講じる必要があるということで載せているのが p30 のリストになります。ニホンリスは影響が無いであろうということで、p30 のリストから抜けている形になります。

委員：ゴルフ場にシカ、イノシシ、ニホンザルが出没するといった報告はありますでしょうか。生態系に関連して普通種への影響についても伺いたいのですが。

事業者：今後、環境保全措置として、事業に着手するまでに現地調査をして、希少な動植物の生息・生育状況を確認したいと思っております。令和 2 年の秋に一度調査を行っているところです。現地調査では、文献で確認した重要種だけでなく、一般の種も含めて生物相を確認しますので、その中でシカ、イノシシ、ニホンザルも上がってきます。実際に、本日も現地でニホンザルを見ましたし、ゴルフ場の方の話でもキツネ等を見るという話がありました。

委員：シカやイノシシ等の大きく移動する生物が、人畜共通感染症を媒介するダニ等を連れてきて馬と接触すると、紅斑熱のような病気がヒトにも感染する可能性がありますので、感染防止を考える必要があると思います。

質問ではなく意見ですが、鈴鹿山脈でもツキノワグマの生息が確認されていますので、餌の管理はしっかりとお願いします。

委員：全国の類似施設で騒音や悪臭に関する苦情の事例はあるのでしょうか。

事業者：私どもの聞いている範囲では、そのような事例はありません。このような施設は、山間部や人家から離れた場所に作られることが多いので、今のところ、そういった情報は聞いておりません。

委員：ゴルフ場から競走馬のトレーニングセンターに変わるわけですが、来訪者は多くなるのか、それとも少なくなるのでしょうか。交通量や交通に関する騒音が増減するかを確認したいと思います。

事業者：鈴峰ゴルフクラブの東コースがトレーニングセンターになります。トレーニングセ

ンターに来られる方は、馬の調教師や、馬主関係者と聞いていますので、ゴルフに来られる方よりも圧倒的に少ないと考えています。

委員：交通に起因する騒音は起こりづらいと理解しておきます。ゴルフ場とトレーニングセンターとの境界はどのようになりますか、フェンスが設けられるのでしょうか。

事業者：営業を続ける中コースと、ホースパークになる東コースとの間には植樹された小堤があり、ゴルフ場の開設後約 40 年経過していることから大きな樹木が生えております。それらはすべて残すという前提ですが、一部にゴルフコースとトレーニングコースが近接する部分があります。そういったところは今後の検討次第ですが、ゴルフボールが飛び込まないように、フェンスやネットができる可能性があります。

委員：人の往来は無いかと思いますが、先の委員から質問があったように、野生動物は行き来できる境界でしょうか。

事業者：そのとおりです。今回はゴルフ場として一次造成が終わっています。その中で一部樹木の伐採は発生しますが、可能な限り既存の樹木は切らず、形状を残したいという方針があります。なお、ゴルフ場の中には野生動物が生息している森はありませんので、そこを伐採することで、サルやイノシシが移動することはないと思います。